

令和7年度（2025年度）	
第2回函館市観光アドバイザー会議 議事録	
開催日時	令和8年（2026年）3月25日（水）16:00～17:40
開催場所	函館コミュニティプラザ Gスクエア 多目的ホール
出席委員	奥平委員長，奥野委員，中村委員，飯野委員，金道委員，廣川委員，渡部委員，櫻坂委員
欠席委員	古地委員
事務局ほか	観光部長，観光部次長，観光総務課長，イベント・FC担当課長，観光推進課長，コンテンツ開発担当課長，観光総務課観光戦略担当主査，観光戦略担当主事
議題	（1）函館観光の動向について （2）令和8年度事業について （3）その他

■ 議事概要

（1）函館観光の動向について

事務局より，資料1に沿って，来函観光入込客数，外国人宿泊客数，観光基本計画における目標値の進捗状況，令和8年度の主な出来事やイベント・コンベンション開催予定，市内の混雑対策・マナー啓発の状況，北海道新幹線開業10周年記念事業等について説明。委員からの特段の意見はなかった。

（2）令和8年度事業について

事務局より，資料2-1「取組状況調書」および資料2-2「主な事業」に沿って，令和8年度の観光関連事業について説明。その後，委員による意見交換を実施。委員の主な意見と質疑応答は以下のとおり。

➤ オーストラリア，アメリカ向けプロモーションについて，宿泊施設の現場でも増加を実感しており，ニセコとの連携は有効と思われる。今回重点化した背景と今後の方向性を教えてほしい。

→（事務局）オーストラリアについては，カンタス航空の就航や令和6年度の観光入込客数で大きな伸びが見られたことを踏まえ，重点市場として着目した。また，ニセコに

長期滞在する旅行者も多いことから、現地だけでなくニセコでのPRも通じて認知度向上を図っていききたい。市場動向を見ながら、現地・周辺エリアを含めた効果的なプロモーションを進めていく。

- ▶ インドネシアからのファムトリップ受入時に、礼拝場所や足洗い場などムスリム対応について質問を受けた。場所の確保は可能である場合でも、足洗い場など必要な設備が十分に整っていないことに加え、清掃を含む維持管理面にも課題があることから、今後、こうした対応への補助や支援は考えているか。
→(事務局)ムスリムを含む多様な旅行者への対応は重要と認識している。北海道では、宿泊税の使途の一つとして、宿泊施設の高付加価値化に向けた補助メニューが検討されており、礼拝スペースの確保等もその対象となる可能性がある。本市としても、こうした情報の収集や適切な情報発信に努めていきたい。
- ▶ 函館は、ハラルやヴィーガン対応に関する表示がニセコ等と比べて十分ではない印象がある。こうした食の多様なニーズへの対応について、受入環境の整備やニーズ把握を進める必要があるのではないか。
→(事務局)食の制限への対応は重要であり、受入可能な範囲から進めることも必要と考えている。勉強会や情報共有の場づくりも含め、検討していききたい。
- ▶ ゴールデンカムイや名探偵コナンのようなコンテンツ活用について、イベント終了後に特設サイトが見られなくなると、聖地巡礼したい人が困るのではないか。終了後も情報を残す工夫が必要ではないか。
→(事務局)著作権の関係上、特設サイト等は開催期間中のみの公開となる場合が多いが、ゴールデンカムイイベント終了後も市のホームページや「はこぶら」等で取り組みの様子や関連情報を紹介できるよう調整を進めている。
- ▶ Jリーグのキャンプ誘致について、今後の見通しや動きはあるか。
→(事務局)クラブハウスの改修など受入環境の整備を進めている。スポーツ合宿全体の誘致拡大に向けた体制強化の一環として取り組んでおり、来年度以降の継続についても協議を進めている。
- ▶ 平準化指数が目標値を上回っているが、繁忙期と閑散期の差は縮まってきているという理解でよいか。
→(事務局)令和6年度実績で目標値を達成しているが、冬季の動向も含めて継続的に注視する必要がある。今後の推移によっては、目標値の見直しも含めて議論いただく可能性がある。
- ▶ 稼働率の平準化だけでなく、客単価や地域への利益の視点も重要ではないか。
→(事務局)地域経済への波及を考えると、地域に落ちるお金の視点は重要である。本市としては、高くても選ばれる観光地としてのブランド力向上を図っていききたい。
- ▶ 湯の川エリアのプロモーションが計上されているが、単発ではなく中長期的なブランディングの視点はあるか。
→(事務局)湯の川温泉については、昨年度、地域関係者の意見を伺うブランディング

検討会を実施しており、その結果を踏まえ、来年度はブランディングを意識したプロモーションを展開していく考えである。

- ▶ 定期観光バスの運行に係る予算について、どのような内容か。
→ (事務局) 主要観光地を巡る定期観光バスの実証実験に係る市負担分であり、PR経費等を市で負担するもの。観光案内所にも問い合わせが多く寄せられており、一定のニーズがあると考えている。
- ▶ 港まつりなどのイベントについて、観光コンテンツとしての磨き上げや、他地域との連携も考えられるのではないか。
→ (事務局) 港まつりのイカ踊りは、観光客が当日参加しやすい貴重なコンテンツであり、今後さらに活用していきたい。青森ねぶた祭等との周遊需要の取り込みも含め、連携の可能性を探っていきたい。

(3) その他

事務局より、来年度の函館市観光アドバイザー会議は、令和8年7月頃の開催を予定している旨を報告。